

令和6年度 学習分析事業 改善計画シート 三原市立沼北小学校

【別紙】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		51.3	54.2	43.4	49.1	49.1
	本年度結果 偏差値平均	52.9	49.6	55.8	44.2	48.8	50.3
算数	前年度結果 偏差値平均		53.5	59.2	46.8	53.4	53.2
	本年度結果 偏差値平均	49.2	55.4	58.4	45	50.6	51.7
理科	前年度結果 偏差値平均				42.1	51.7	48.8
	本年度結果 偏差値平均			55.5	46.1	48.7	50.1
全体	前年度結果 偏差値平均		52.4	56.7	44.1	51.4	51
	本年度結果 偏差値平均	51.1	52.5	56.6	45.1	49.3	50.9

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	69 (100)	75 (117.1)
本年度結果 (対県比)	65 (94.2)	62 (96.8)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語科では、書くこと領域において「読み返してよいところを見つける」(2年/通過率31.3/全国50.8)、「文や文章を正しく書く」(3年/56.7/全国43.7)、「文章を整え感想や意見を伝え合う」(4年/通過率21.4/全国37.8)、「情報を選び構成を考えて書く」(5年/通過率37.1/全国41.5)、「漢字の書き・仮名遣いや複合語等」(6年/通過率53.2/全国60)が課題である。読むこと領域において「文章を読み感想などを伝え合う」(2年/通過率37.5/全国48.3)、「文章を読み、感想などを伝え合う」(3年/通過率50/全国43.3)、「主題や構成を読み取る」(4年/通過率30.9/全国45.3)、「考えや感想を持って伝え合う」(5年/通過率33.2/全国39.0)、「要点をとらえ内容を解釈する」(6年/通過率72.3/全国68.8)が課題である。 ●算数科では、数と計算・図形の領域において「ものの形、ものの位置」(2年/通過率66.8/全国73.2)、「三角形や四角形」(3年/通過率75.7/全国60.8)、「二等辺三角形、角、円」(4年/通過率55.0/全国61.5)、「立方体・直方体」(5年/通過率57.8/全国59.4)、「整数の性質」(6年/通過率42.3/全国41.5)が課題である。測定・データ領域では、「時刻の読み方」(2年/通過率68.8/全国73.3)、「表やグラフ」(3年/通過率80/全国60.8)、「表と棒グラフ」(4年/通過率49.9/全国58.3)、「表と折れ線グラフ」(5年/通過率49.2/全国52.5)、「単位量当たり、速さ」(6年/通過率30.8/全国33.5)である。 ●理科では、「乾電池と豆電球」(4年/通過率21.4/全国31.0)、「天気と気温・雨水と地面」(5年/通過率48.2/全国49.3)、「振り子の動きとそのきまり」(6年/通過率62.8/全国68.0)が課題である。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語においては、「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」(本校53.8/全国64.9)、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる(いかに)」(本校38.5/全国53.3)、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」(本校53.8/全国62.9)が課題である。 ●算数においては、「正三角形の意味や性質について理解している」(本校7.7/全国25.1)、「百分率で表された割合について理解している」(本校38.5/全校46.2)が課題である。
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）	達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○全教諭が「問い」を立てることと、その解決を意識した授業を実施できるようにする。 ○全学級で課題解決の際に自己決定をし、課題を解決する場を設定できるようにする。 ○全学級で課題解決や話し合いの場、ふりかえりの場において、児童同士が承認活動を行うことができるようにする。 ○ルール、方法等のある程度パターン化して学習活動を繰り返し体験させることで、対人関係の形成・学級集団作りに活用していく。	①全職員による校内研修においてNRTの調査分析を行い、各学級の実態把握と改善計画の立案を行う。改善計画シートを活用し、明らかになった課題を基に、授業の中で適切に補充することができるようにする。 ②①で明らかになったNRT下位群への学力アップを図るため、単元末テストの得点率の推移をもとに学力分析を行い、もりもりタイムなどを活用して組織的取組を行う。 ③全職員による校内研修において改善計画の共有を行う。目標や課題に対する具体的な取り組み方法について学年部で交流する。 ④全職員による校内研修及び校内授業研究による目指す授業の共有(本質的な問いを校内研修で立て、それに伴う単元を貫く問い、個別の問いを立て、見方・考え方を働かせることのできる授業を目指す。) ⑤授業のフシリシートを具体化した授業実践を行い、授業研究ごとに評価しあう。 ⑥管理職によるフル授業参観を全学級で実施する。参観後、授業に関わって管理職による面談を行う。 ⑦全職員による校内研修において全国学力・学習状況調査の調査分析と実施把握を行う。また、各学年の学習内容につながる事項を明確にし、年間指導計画を活用して計画的に学習を行うことができるようにする。 ⑧健康観察時に「金のルール」を基に朝食を食べてきたかの確認を行うことで、脳の活性化、学習意欲の向上を図る。 ⑨帯タイムにおいて学級の実態に応じてアシストシート等を活用することで基礎、基本の定着を図るとともに、解答時間を制限して取り組ませることで、時間を意識して解答する力の向上を図る。特に課題の多い第4学年は、担任と管理職による習熟度別の帯タイムを実施する。	①6月 ②毎日、単元末テスト実施時 ③7月、9月 ④学期に3回の校内研修、2学期(研究主任による示範授業) ⑤学期に1回の校内授業研究 ⑥学期に1回 ⑦8月 ⑧毎日 ⑨火曜日国語、木曜日算数、金曜日理科	①Q-U2回目の学習意欲の数値 (全学級で全国得点+1以上) ②国語、算数、理科の単元末テスト 平均値 (平均80%以上、50点以下0%) ③単元末再テストで正答率70%以上 (達成率100%) ④児童アンケート「知」の項目の数値 (肯定的評価85ポイント以上)
【学級・学習集団づくり】 ○各学級の実態を校内研修において月に1回共有することができるようにする。 ○帯タイムの時間に週に一度、学級タイプに即したエンカウンターを行い、繰り返し対人関係の相互作用を活用することで、子どもの学習意欲を喚起して学習の定着を確実なものにしていく。	①全職員による校内研修において、Q-Uの分析による各学級の実態把握と改善計画の立案を行う。 ②全職員による校内研修において改善計画の共有をする。目標や課題に対する具体的な取り組み方法について学年部で交流する。 ③校内研修において各学級の実態共有を行うことで、全職員で各学級の課題や取り組みを認識し、取り組みや声掛けを行うことができるようにする。 ④週に1度の帯タイムにおいてQ-Uの結果や児童アンケートの結果に基づいたエンカウンターの実施することで、集団作りを行っていく。 ⑤「ほかほかの木(全校児童による友達の良いところ見つけ)」の取組を継続して行い、さらに、給食時に放送することを通して、共感的な人間関係づくりを行う。 ⑥縦割り遊びを継続して行うことで、異学年交流を通して高学年としての役割を自覚させ、低学年は高学年の姿からかかわり方を学ぶ。 ⑦定期的に全校集会を実施し、積極的な評価活動を行い、共有する場を設ける。	①6月 ②6月、9月 ③月に1回の校内研修 ④週に1回の帯タイム ⑤毎日 ⑥学期に1回 ⑦週に1回	①Q-U2回目の三次支援の数値向上 (全学級で0名) ②児童アンケート「徳」の項目の数値 (肯定的評価85ポイント以上)

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ●国語科では、読むこと領域で、説明文について「詳細読み取り」(2年)、「構成」「資料の読み取り」(6年)、「報告文の読み取り」(4年)に、物語文については、「要点の理解」(3年)、「詳細の読み取り・解釈」「主題や構成の読み取り」(5年)に課題があった。 ●算数科では、数と計算・図形の領域で、「場面から加減法の計算」(2年)、「計算の工夫・三角形の数」(3年)、「二等辺三角形の説明」(4年)、「ものの位置の表し方」(5年)に、測定・データ領域では、「二次元表・欄の説明」(5年)、「複数のグラフの読み取り」「帯グラフと表」(6年)に課題があった。 ●理科では、「磁石と極」(4年)、「加熱と全体的な対流」(5年)、「砂や石の堆積する場所」「食塩水の重さ・溶解後」(6年)に課題があった。 (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語においては、「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる」(本校55.6/全国80.3)、「人物像を具体的に想像することができる」(本校44.4/全国72.5)が課題である。 ●算数においては、「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」(本校44.4/全国56.9)、「速さの意味について理解している」(本校22.2/全国54.1)、「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる」(本校33.3/全国49.3)が課題である。

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・まとまった文章を書くこと ・長文の読み取り ・情報と情報との関連付け	①全学年全教科等でのR80の実施(必須)→校内研修で交流 ②問題や条件、それに適合する叙述・部分に線を引いて読み ③三角ロジックによる説明 ④学習内容が定着するように、漢字・計算テスト等目標値を決めて取り組む。	○Q-U2回目の学習意欲の数値 (全学級で全国得点+1以上)(Q-U2回目結果分析時) ○単元テスト(国・算・理) ①正答率 全国平均以上 ②50%以下0人 (各学期末) ○国語科期末テスト ③初見問題 正答率 全国平均以上(各学期末) ○児童アンケート (集団アンケート『知』の項目) 肯定的評価88ポイント以上(各学期末)
【学級・学習集団づくりについて】 ・支持的風土の醸成 ・安心できる居場所づくり ・児童生徒が主体の絆づくり	①月1回、校内研修での各学級の実態の共有と取組の改善 ②「ほかほかの木」の取組による共感的な人間関係作り ③縦割り班遊び、異学年交流による関わりと学び合い	①Q-U2回目の三次支援の数値向上 (全学級で0名)(Q-U2回目結果分析時) ②「ほかほかのカード」 毎月一人2枚以上(各学期末)